

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ） 事業の検証

1 交付金の概要

本交付金は、地域再生法に基づき、地方公共団体が策定した地方版総合戦略に位置付けられ、地域再生計画に記載された先導的な取組を安定的かつ継続的に国が支援する仕組みです。

2 事業評価の趣旨

デマンド型乗合送迎サービス「チョイソコがうら」の実証運行に対し、令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金を活用するにあたり、令和4年3月30日に認定を受けた地域再生計画において、年度ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定しています。

今回、令和6年度の数値目標及びKPIの達成状況等について、検証を行うものです。

3 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の対象事業

（1）地域再生計画名称

外出機会の確保と地域経済の活性化に向けたオンデマンド型乗合交通「チョイソコがうら」実証運行事業

（2）事業の目的

タクシーよりも安価に移動できるような、ICTを活用した乗合型のデマンド交通を導入し、路線バスの運行本数の少なさや停留所までの距離などにより今まで対応できていなかったニーズへ対応することで、外出することによる健康づくりや、地域内の移動によるまちの賑わいを創出し、可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指すものです。

（3）事業期間

令和4年10月から令和7年9月まで

（4）運行区域

長浦地区 →長浦地区から実証運行を開始し、実績等を踏まえながら順次地区の拡大を検討していきます。

（5）交付対象事業に要する経費

令和4年度交付金対象事業費	19,621,085円
交付額	9,700,030円

<内容>

イニシャルコスト：基本システム導入経費、利用促進等関係費
ドライバー研修費、運用等コンサルティング費
車両準備費、停留所看板設置費

ランニングコスト：基本システム利用料、コールセンター業務代行費
通信費、運行事業費、車両リース料

4 重要業績評価指標（KPI）

指 標	令和4年度 （目標値）	令和5年度 （目標値）	令和6年度 （目標値）
高齢者の年間利用者数（人）	126 （400）	331 （700）	589 （900）
利用者一人当たりの 年間利用回数（回）	8 （12）	14 （30）	11 （36）
利用登録者数	800 （900）	1,326 （1,500）	3,028 （1,900）
健康づくりや地域経済の活性化に協力する企業数（社）	0 （5）	6 （15）	11 （25）

5 令和6年度の実証運行と検証内容

（1）市内全域での実証運行開始

①拡大時期

令和6年10月1日から

②拡大内容

新たに昭和地区、根形地区、平岡地区、中川・富岡地区において実証運行を開始し、運行区域を市内全域に拡大しました。

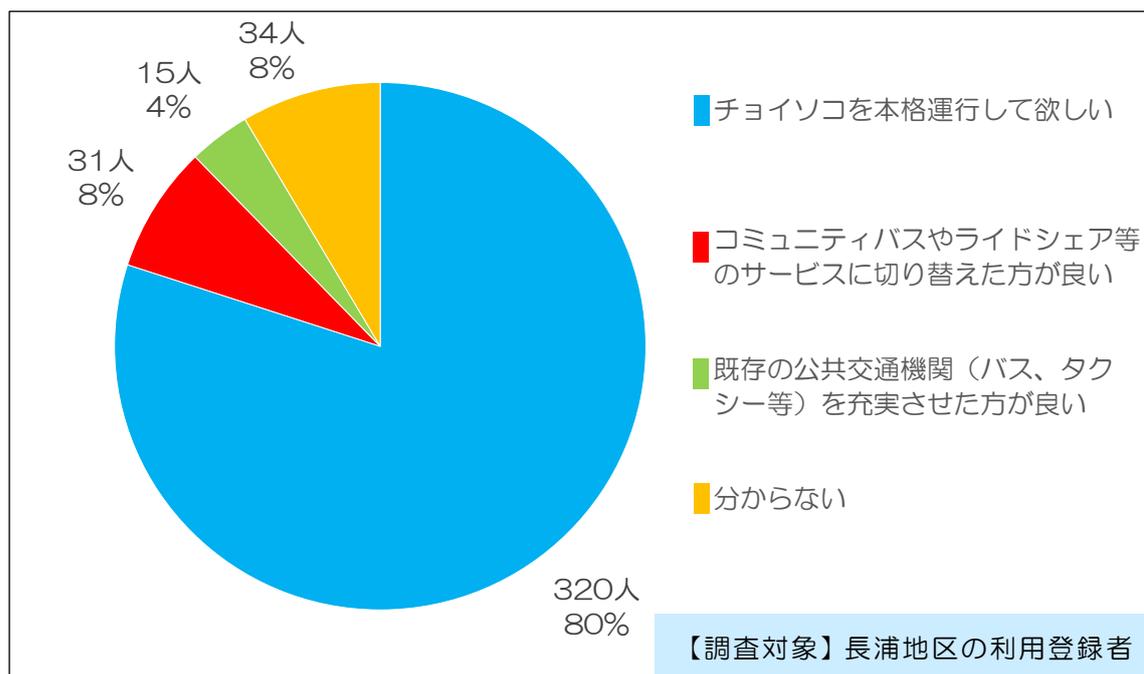
（2）長浦地区における本格運行の検討

①各目標値の達成状況（令和6年度）

項目	目標値	実績 （令和7年3月末）
乗合率	1.30	1.33
収支率	9%	26%
年間利用者実人数	500人	610人

※乗合率と収支率は市全体の数値、年間利用者実人数は長浦地区の数値

②本格運行にかかる希望アンケートの結果（令和7年2月実施）



③長浦地区の本格運行の検討結果

令和4年10月からの実証運行開始以降、利用登録者は増加を続け目標を大きく上回ったことに加え、高齢者（65歳以上）の年間利用者数は目標に達していないものの、65歳未満の利用が想定よりも多くあり（全体の約3割）、年間利用者数の合計は889人となりました。

また、各目標値の達成状況を見るといずれの項目も目標値を上回っており、特に収支率については、企業版ふるさと納税で1千万円を超える寄附があるなど、大きく数値が上昇しました。

加えて、令和7年2月に実施した利用者アンケートにおいて長浦地区の本格導入を希望する割合が8割程度となっており、今後更なる利用が見込めるとともに、寄附金等による企業の関心の高さから、社会的な受容性も持ち合わせていると評価できます。

このようなことから、長浦地区における地域内の移動手段として「チョイソコがうら」が適していると判断し、令和7年10月から長浦地区において本デマンド交通を本格運行することとしました。

なお、令和9年9月までは市内で実証運行地区と本格運行地区が混在することとなり、乗合率や収支率など、引き続き改善を要する事項もあるため、必要に応じて運行計画の変更等を加えながら、持続可能な事業展開を目指します。